

百舌鳥
もず

池松 孝子

銀杏の葉が金色に輝く見事な街路樹をベランダから眺めていたら、百舌鳥の甲高い鳴き声が響き渡つた。百舌鳥は秋、木のてっぺんでキ、キーと鋭い声で鳴く。その鳴き声は、秋の澄んだ青空に高く、高く響きわたる。「百舌鳥の高鳴き七十五日」といつて、百舌鳥の高鳴きが始まると七十五日後には初霜が下りるといつ。先人は季節に敏感だ。

鳴の声かんにん袋破れたか

一茶

百舌鳥は他の鳥の鳴き声をまねるのがうまいので「百の舌」この漢字が使われる。100種類以上の鳥の声を持つといわれる。また「高鳴き」は、冬に備えた餌の取り合い、縄張り争いの声だ。秋の季語である。

百舌鳥は、里山でよく見られ、小鳥ではあるが肉食である。昆虫類ならまだしも、小鳥などの小動物からねずみ、もぐり、バッタ、蛙までも好んで食べる、肉食性の鳥だ。20センチほどの体に尾羽、鋭いくちばしを持つ。そのくちばしで捕まえた獲物を木の枝先、股さりには有刺鉄線などに突き刺して、そのまま放置する。その獲物を百舌鳥の「はやにえ」という。はやにえを作る時期は晩秋で、1羽が120個以上ものはやにえを蓄えるという。餌の少ない冬の保存食として、木に張り付けた干物を思いつくとは。もちろん頭脳も素晴らしいと思うが、面白い保存食だ。これを見て「冬の風物詩」に挙げるむきもある。

こりして蓄えたはやにえを食べるのは真冬で、その先の繁殖期に備えているのだ。これから百舌鳥のオスはメスにプロポーズをする。はやにえをたくさん食べたオスの声の方がうまいという実験結果があるともいつ。激しい声の「高鳴き」をして縄張り争いをするための栄養食というわけか。

百舌鳥は一夫一妻と謂われる。つがいの鳥は数個の卵を産んで子育てをする。ところがある研究ではオスが育てていた雛鳥のうち、何パーセントかは、そのオスの遺伝子ではなかつたことが分かつた。悲しいのはそれを育てる父か。